

関通 | 9326

東証グロース

2Q Follow-up

積極的な物流投資に伴うコスト負担を吸収し、
FY24/2期の営業利益は70.8%増益を見込む

要約

- 関通は高成長を続けているEC業界を支える物流企業で、物流工程で上流と呼ばれる受注処理から配送までを請け負う倉庫物流のスペシャリスト。自社開発した効率性を高めるITシステムを自社使用に留まらず外販することで高収益事業も創出している。
- FY24/2期2Qの主要数値は、売上高5,619百万円(前年同期比10.0%増)、営業利益164百万円(同14.1%減)、経常利益162百万円(同7.4%減)、親会社株主に帰属する当期純利益(以下、当期純利益)は115百万円(同2.3%増)となった。期初予想は上回ったものの、一部の物流倉庫家賃のフリーレント期間の終了に伴い、主力の物流サービス事業が減益となったことが影響している。これは期初より想定していたことで、不確定要素の発生によるものではなかった。
- FY24/2期会社通期業績予想は売上高11,756百万円(同12.0%増)、営業利益669百万円(同70.8%増)、経常利益624百万円(同73.1%増)、当期純利益387百万円(同38.3%減)が見込まれている。当期純利益の減益は前期に固定資産売却益が計上されていたためである。下期は繁忙期であり、既存顧客売上及び新規顧客獲得が順調に拡大しており、家賃などのコスト負担増は下期にかけて軽減でき、FY24/2通期は前期比70.8%の大幅な営業利益の拡大が見込める。
- 現行の中期経営計画で3年後のFY26/2期に売上高16,091百万円(FY23/2期比較53.3%増)、営業利益893百万円(同2.3倍)の収益達成を計画している。物流センターの拡充などでEC市場の市場規模の増加率を上回る成長を目指し、また利益率が非常に高いITオートメーション事業にも注力することによって中期経営計画の達成を図る。

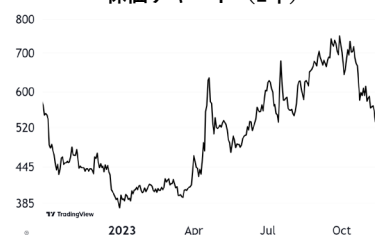
Focus Point

EC業界のバックヤードを支える物流企業。急拡大且つ複雑化する物流ニーズに独自のノウハウで対応する。省力化のため先端テクノロジーの導入にも積極的に自社開発のITシステムにも注力

主要指標

株価 (11/17)	536
年初来高値 (9/28)	772
年初来安値 (3/16)	382
10年間高値 (21/7/21)	1,583
10年間安値 (20/3/19)	334
発行済株式数(百万株)	10.308
時価総額(十億円)	5.700
EV(十億円)	7.702
株主資本比率(2/28)	28.75%
24/2 PER(会予)	14.3x
23/2 PBR(実績)	2.02x
23/2 ROE(実績)	21.0%
24/2 DY(会予)	1.9%

株価チャート(1年)



出所: Trading view

決算期	売上高 (百万円)	YoY (%)	営業利益 (百万円)	YoY (%)	経常利益 (百万円)	YoY (%)	当期利益 (百万円)	YoY (%)	EPS ⁽²⁾ (円)	DPS (円)
19/2 単	6,468	23.1	126	-21.1	103	-25.5	78	40.4	13.0	-
20/2 単	7,302	12.9	291	130	255	145.8	170	118	25.0	-
21/2 単	9,530	30.5	418	43.5	383	50.2	283	66.5	30.0	-
22/2 単	10,099	6.0	729	74.5	687	79.4	463	63.9	44.0	10.0
23/2 連 ⁽¹⁾	10,493	-	392	-	360	-	628	-	61.2	10.0
24/2 連(会予)	11,756	12.0	669	70.8	624	73.1	387	-38.3	37.4	10.0
四半期										
23/2 2Q 連 ⁽¹⁾	5,107	-	191	-	175	-	113	-	10.6	-
24/2 2Q 連 ⁽¹⁾	5,619	10.0	164	-14.1	162	-7.4	115	2.3	11.1	-

出所: 会社資料よりSIR作成

注(1): 23/2期1Qより連結財務諸表を作成していることから、23/2期2Q及び23/2通期それぞれの対前年同期比増減率は記載していない。

注(2): 潜在株式調整後株数で計算したEPSを表記。

中嶋 俊彦
シニアアナリストresearch@sessapartners.co.jp

2024/2期2Q決算概要

2Q連結ベースの主要数値は、売上高5,619百万円(前年同期比10.0%増)、営業利益164百万円(同14.1%減)、経常利益162百万円(同7.4%減)、当期純利益115百万円(同2.3%増)となった。9月15日には2Q業績予想修正発表が行われており、その時点の業績予想は売上高5,620百万円、営業利益158百万円、経常利益156百万円、当期純利益106百万円であった。利益に関しては業績修正を僅かながら上回って着地した。セグメントごとの業績動向は以下の通り。

物流サービス事業の売上高は5,299百万円(同9.8%増)、セグメント営業利益は51百万円(同57.0%減)となった。既存顧客の作業・運賃等の交渉による値上げ、利益率の高い冷凍冷蔵倉庫利用の顧客の増加の影響等で利益の向上に努めた一方で、前年同期にあった96百万円の大口スポット顧客売上高がなくなったことに加えて、2022年8月に新設のD2CII物流センター(兵庫県尼崎市、総床面積約4,000坪)の賃料のフリーレント期間終了に伴う家賃負担増の影響が大きく、営業利益の減益の要因になった。当社では、このことは期初から想定をしており、特に不確定要素の発生によるものではないとしている。

ITオートメーション事業の売上高は268百万円(同20.0%増)、セグメント営業利益は113百万円(同66.4%増)となった。倉庫管理システム「クラウドトーマス」及び「クラウドトーマスPro」は新規の顧客獲得が堅調に推移したことに加えて、利用料の単価アップが増収増益に繋がった模様である。

その他の事業では障がい者のお子様向けの放課後等デイサービス及び障がい者の方向けの就労移行支援サービスが中心となっている。同事業の売上高は52百万円(同6.2%減)、セグメント営業利益は0.2百万円(同95.0%減)に至った。

セグメント区分	売上高			セグメント損益(営業利益)			
	実績	構成比 (%)	前期比 (%)	実績	構成比 (%)	前期比 (%)	営業利益率 (%)
物流サービス事業	5,299	94.3	9.8	51	31.0	-57.0	1.0
EC・通販物流支援サービス	5,179	92.2	9.6	-	-	-	-
受注管理業務代行サービス	84	1.5	41.9	-	-	-	-
その他	36	0.6	-19.2	-	-	-	-
ITオートメーション事業	268	4.8	20.0	113	68.9	66.4	42.1
SaaS利用料	158	2.8	10.2	-	-	-	-
機器・導入・開発	110	2.0	32.5	-	-	-	-
その他事業	52	0.9	-6.2	0.2	0.1	-95.0	0.5
セグメント合計	5,620	100.0	10.0	164	100.0	-14.1	2.9

出所: 同社資料よりSIR作成

FY24/2期の見通し

FY24/2期の主要な会社予想数値は、売上高11,756百万円(同12.0%増)、営業利益669百万円(同70.8%増)、経常利益624百万円(同73.1%増)、当期純利益387百万円(同38.3%減)である。当期純利益の減益はFY23/3期に当社が保有する物流センター(大阪府東大阪市)の土地建物を売却した固定資産売却益1,068百万円の特別利益が計上されていたことによる影響である。

上期に当たる2Qの利益に関しては4月14日発表の期初予想、更に9月15日の2Q業績予想修正値を上回る結果になったが、FY24/2通期予想は据え置かれている。更に当社業績は物販EC市場の特徴を反映して下期偏重型であることから、FY24/2期の業績予想が達成される見込みは高いと考えられる。事業別の動向は以下の通りである。

FY24/2期の物流サービス事業の売上高は10,798百万円(同9.8%増)が見込まれている。内訳はEC・通販物流支援サービスの売上高10,600百万円(同10.2%増)で受注管理業務代行サービスは120百万円(同4.8%減)となっている。東京主管センターを年内中に満床することを見込んでおり、2023年11月に本社近隣に位置する新センター開設も物流サービス事業の売上拡大に貢献する模様。

一方、ITオートメーション事業では売上高849百万円(同55.4%増)の大幅な増収を見込んでおり、継続して利用料単価の上昇と件数の増加を図り事業規模の拡大を目指していく。クラウドトーマスは大型案件増加に伴い単価が17%アップすることを見込んでいる。

FY24/2期会社売上高予想(単位: 百万円)

セグメント区分	売上高		
	FY23/2期	FY24/2期	前期比(%)
物流サービス	9,837	10,798	9.8%
EC・通販物流支援サービス	9,618	10,600	10.2%
受注管理業務代行サービス	126	120	-4.8%
その他	92	77	-16.3%
ITオートメーション事業	546	849	55.4%
SaaS利用料	269	441	63.9%
機器・導入・開発	276	408	47.8%
その他事業	52	109	109.6%
セグメント合計	10,493	11,756	12.0%

出所: 同社資料よりSIR作成

中期経営計画

同社の中期経営計画は経営環境の変化に柔軟に対応するために、毎期末のローリング方式によって中期経営計画の主要数値を策定している。直近のローリング中期経営計画はFY23/2期の決算発表時に下記の通りFY26/2期までの中期経営計画目標数値が発表されている。

中期経営計画における同社の成長戦略は、①M&Aを活用した業容拡大とプライム市場への移行による企業価値の向上、②物流センター増設による物流サービス事業の拡大、③冷凍冷蔵物流設備への積極的な投資、④クラウドトーマスを中心としたソフトウェア投資を推進しITオートメーション事業の拡大、等を挙げている。尚、現行の中期経営計画にはM&Aによる効果は含まれていない。

ローリング方式の中期経営計画 (FY24/2期~FY26/2期)

百万円、%	23/2期 実績	中期経営計画					
		24/2期 予想	前期比 (%)	25/2期 予想	前期比 (%)	26/2期 予想	前期比 (%)
売上高	10,493	11,756	12.0	13,718	16.7	16,091	17.3
物流サービス事業	9,837	10,798	9.8	12,409	14.9	14,380	15.9
ITオートメーション事業	546	849	55.4	1,200	41.3	1,600	33.3
その他の事業	110	108	-1.8	109	1.0	110	1.0
売上総利益	1,368	1,784	30.5	2,096	17.5	2,470	17.8
営業利益	392	669	70.8	752	12.3	893	18.8
経常利益	360	624	73.1	740	18.5	880	18.9
当期純利益	628	387	-38.3	465	20.1	560	20.3

出所: 同社資料よりSIR作成

LEGAL DISCLAIMER

ディスクレーム／免責事項

本レポートは対象企業についての情報を提供することを目的としており投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載されたデータ・情報は弊社が信頼できると判断したのですが、その信憑性、正確性等について一切保証するものではありません。

本レポートは当該企業からの委託に基づきSESSAパートナーズが作成し、対価として報酬を得ています。SESSAパートナーズの役員・従業員は当該企業の発行する有価証券について売買等の取引を行っているか、または将来行う可能性があります。そのため当レポートに記載された予想や分析は客観性を伴わないことがあります。本レポートの使用に基づいた商取引からの損失についてSESSAパートナーズは一切の責任を負いません。当レポートの著作権はSESSAパートナーズに帰属します。当レポートを修正・加工したり複製物の配布・転送は著作権の侵害に該当し固く禁じられています。



SESSAパートナーズ株式会社

東京都港区麻布十番2-8-14 i-o Azabu 5a
info@sessapartners.co.jp